

- 公共施設は、地域の景観を形成する大きな要素の一つです。
- 山梨県 景観づくり推進室では、景観に配慮した公共施設の設計を実践的に習得するために、平成26年度から『景観設計職員研修』を実施しています。
- 対象者：県公共3部（森林環境部、農政部、県土整備部）職員、県観光部職員、県内市町村職員
- 講師：堀 繁 氏（東京大学アジア生物資源環境研究センター・センター長 教授）
- 研修概要：
 1. 講師より「景観の基礎」について講義。
 2. グループ演習により、受講者自ら景観に配慮した設計を行う。
 3. 現地研修を行い、講師より「良い景観」「悪い景観」の解説。

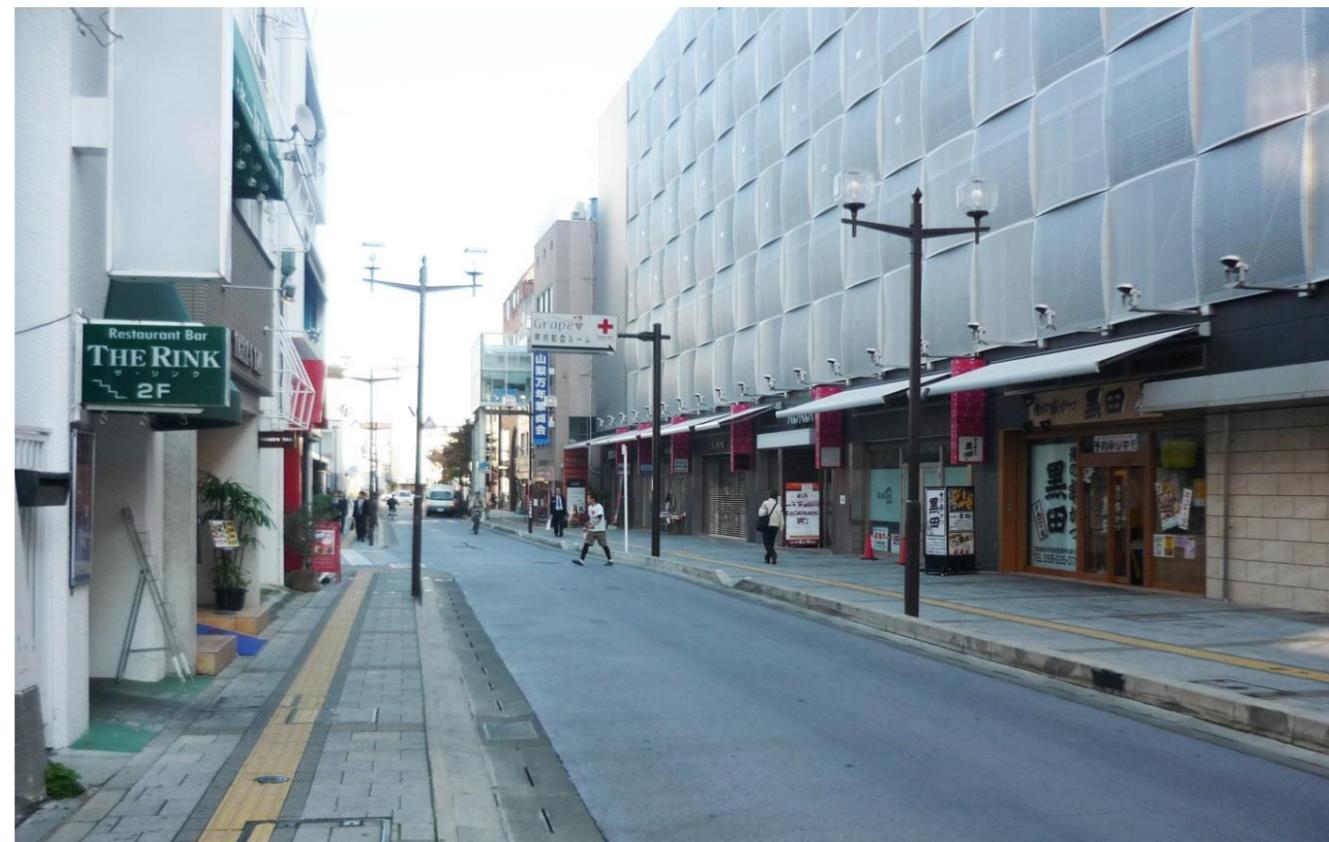
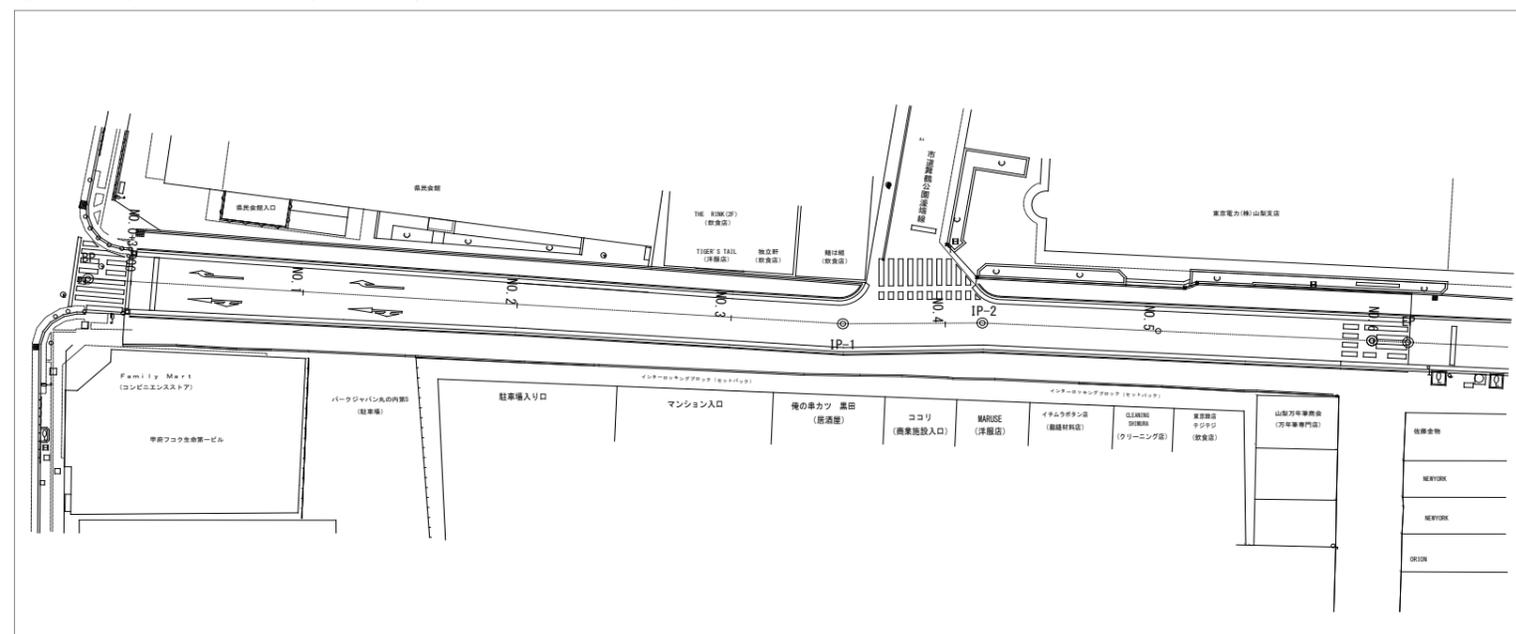
【H28年度実績】

- 参加人数：53名
（うち市町村職員4名）
- 研修スケジュールは、右記のとおり

日時	会場	時間	内容	詳細等
1日目10/7(金)	県庁防災新館 304会議室	9:00~11:00[120分]	講演①	・「景観と公共整備」
		11:00~12:00[60分]	現地研修	・県庁周辺を徒歩移動
		13:00~13:50[50分]	講演②	・「景観から考える街路の魅力づくり」
		13:50~16:30[160分]	グループ演習	・グループ毎に演習、発表
1日目10/14(金)	県庁防災新館 304会議室	9:00~9:50 [50分]	講演③	・「景観とまちの魅力から考えるベンチと植栽の重要性」
		9:50~12:00 [130分]	グループ演習	・グループ毎に演習、発表
		13:00~13:40[40分]	講演④	・「景観とまちの魅力から考える舗装の重要性」
		13:40~15:00[80分]	グループ演習	・グループ毎に演習、発表

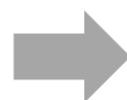
■紅梅北通り線をモデルとし、道路利用者（歩行者）をもてなすための道路空間設計を班毎に実施。

[紅梅北通り線 検討平面図]



良い景観とは・・・

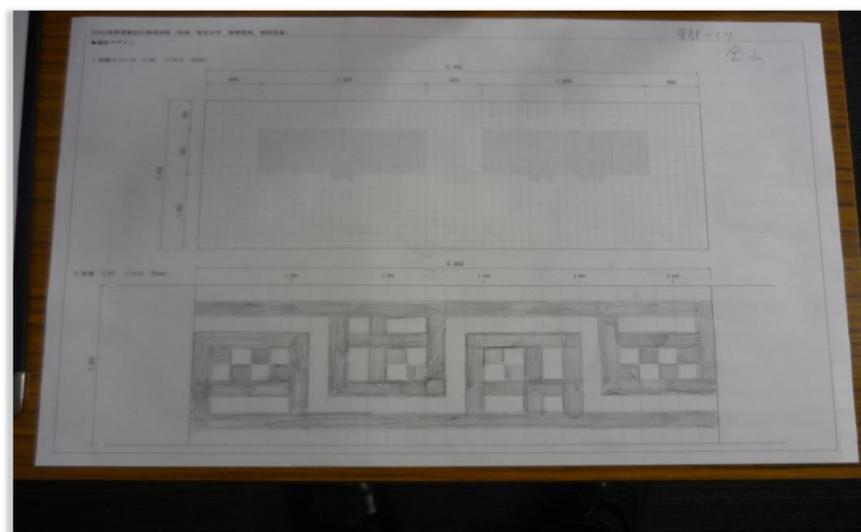
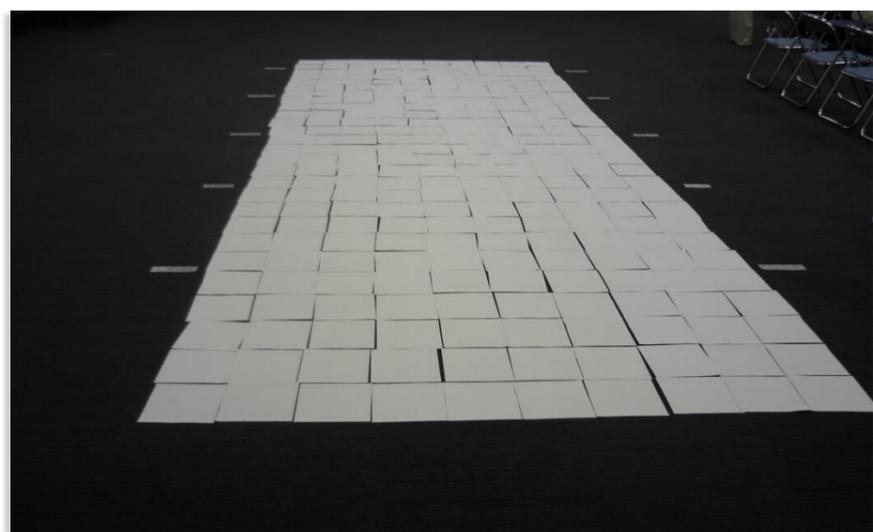
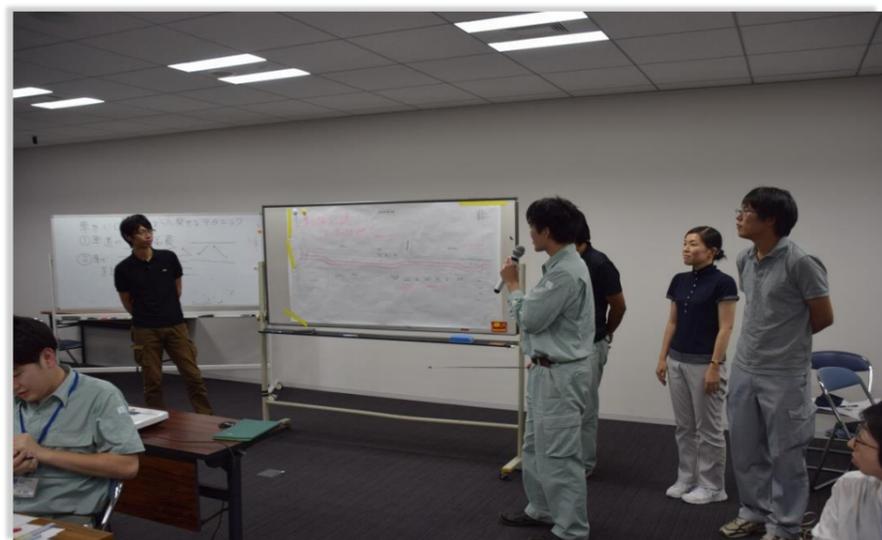
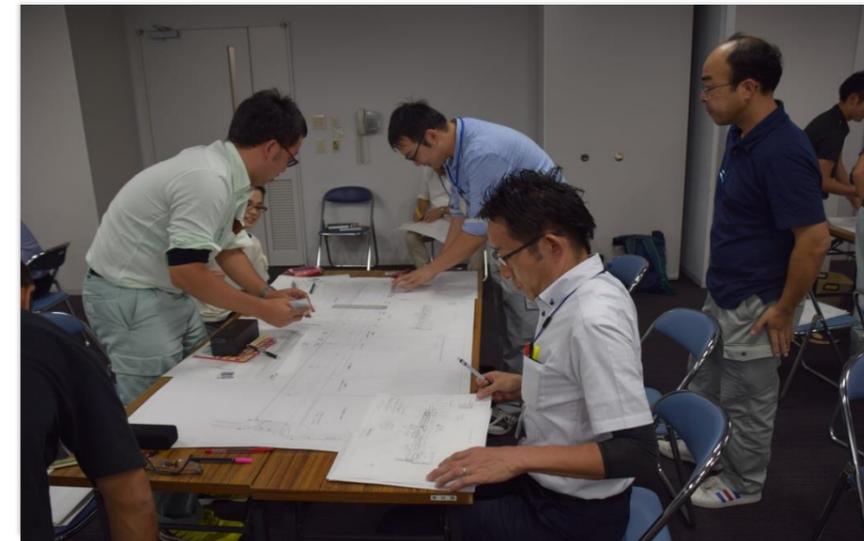
- ① 見たいものが見やすい状態にあること。
- ② 自分のことを大事にしてくれていると、見てとれること。
(ホスピタリティにあふれている状態)



②に着目し、歩行者を大事にした居心地の良い道路空間となるよう班毎に下記の課題に取り組みました。

- ◆自動車の走行速度を落とすために、道路線形にスラロームを加える。
- ◆スラローム化して生まれた空間に休憩スペースを設計する。
- ◆休憩スペースには多くのベンチを配置し、自己領域（あなたのための空間）を形成する。
- ◆歩道舗装、休憩スペースの舗装のデザイン設計を行う。

グループ演習の様子



① 紅梅北通り



② オリオンイースト



③ オリオン通り



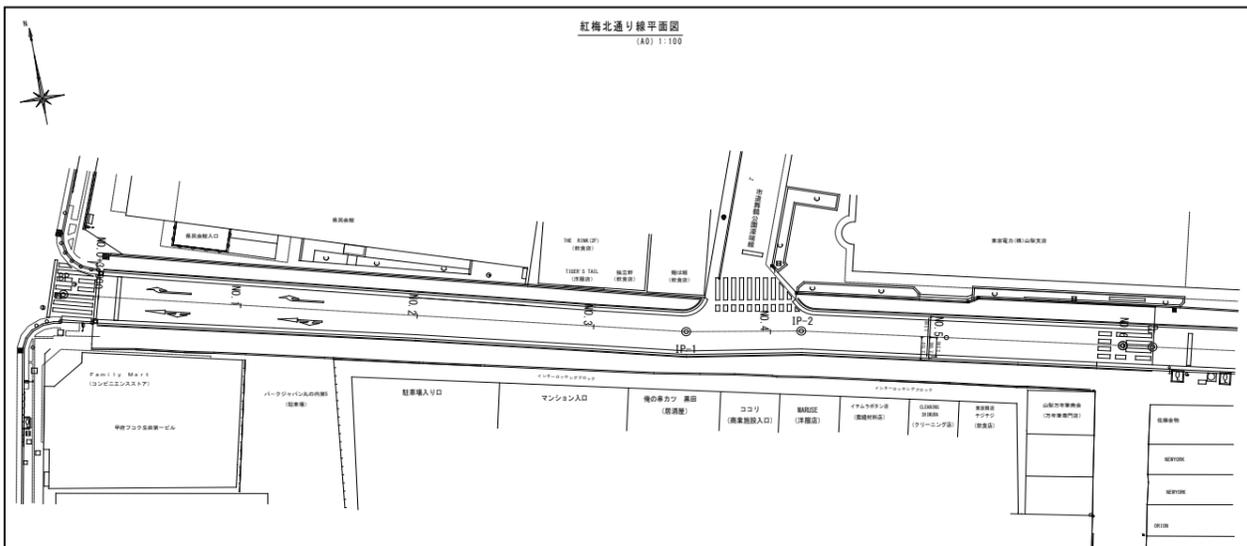
④ 紅梅南通り



県庁周辺①紅梅北通り、②オリオンイースト、③オリオン通り、④紅梅南通りを歩きました。
各箇所では堀先生より、解説して頂き、新しい視点で街を見ることが出来ました。

※舗装デザイン設計（歩道）は、鉛筆1本により2色（白黒）のみでの検討としました。

[元図面]



グループ演習の結果、ホスピタリティにあふれた道路空間となりました。

[紹介事例3：道路線形の変更と休憩スペースを設けた平面図]



ベンチの両脇に街路樹を置くことで、自己領域を形成し、居心地の良い空間となります。

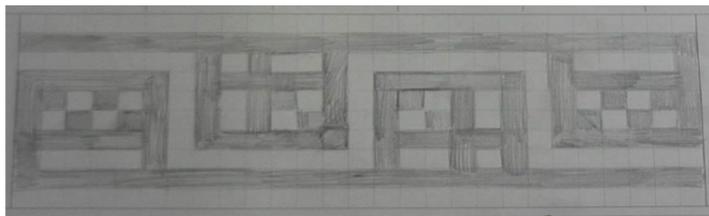
ベンチに座って楽しそうにしている人達を見ることが、歩行者も楽しい気分になります。

車道をスラローム化し、自動車の走行速度を軽減することで、歩行者をもてなします。

- ①まず、堀先生のアドバイスを踏まえ各自舗装デザインを作図します。
- ②縮尺1分の1で再現します。
- ③修正を加え、アフォーダンス(人を導くデザイン)の完成です。

歩道に、ゲシュタルト(図)の形成によるアフォーダンス(人を導くデザイン)を入れることで、歩行者を快適に誘導することが出来ます。

①



②



③



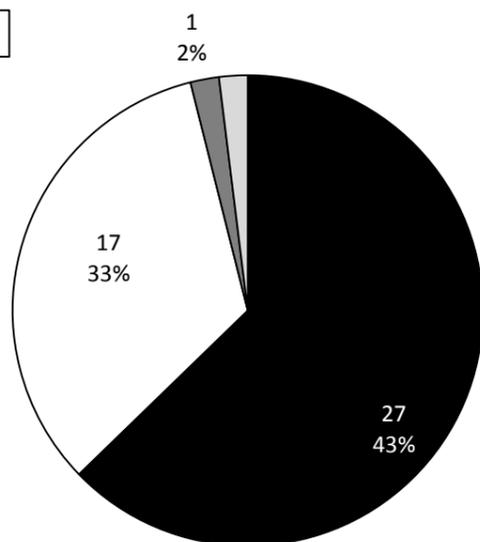
◎景観への捉え方が今までと180度変わるほどの衝撃を受けた。非常に理解でき、受講して良かったと感じた。

◎景観の定義が全く理解できていなかったが、本講演で身についた。今後の業務に活かしていきたい。

◎今まで景観というものを勘違いしていた。また、街路の重要性を教えられた。

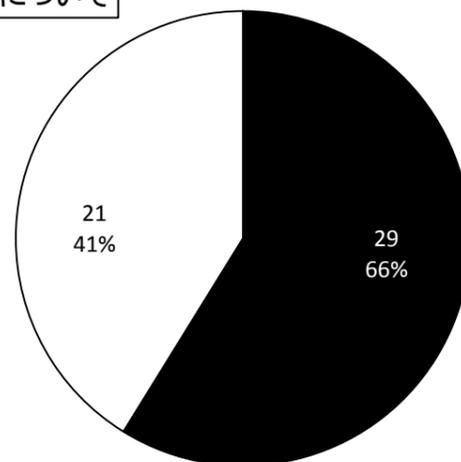
◎普段考える事の無い景観について知ることができた。良い景観は偶然あるわけではなく、理由があることを知った。

講演について



グループ演習について

- よく理解できた
- ある程度理解できた
- あまり理解できなかった
- 全く理解できなかった



- よく理解できた
- ある程度理解できた
- あまり理解できなかった
- 全く理解できなかった

